

風と太陽のくにからの通信誌

カラゴロリ

2-3
2014



「赤城山の白樺林」

赤城山に多く見られる白樺は、澄んだ青空に映え、紅葉の赤や黄色の木々を更に美しく見せてくれる。白樺は幹が白いため、森全体が明るく見え、空を見上げると葉の隙間からこぼれる木漏れ日に心癒される。どこでも見ることができるわけではなく、標高が高い場所でしか楽しむことのできない、白樺林の四季折々の姿をぜひ赤城山でお楽しみください。

風のおと

子どもを育てる町づくり

今、前橋市児童文化センターさんと、前橋市赤城少年自然の家さんと一緒に、前橋の子どもたちの環境教育、自然体験の活動を各施設の利用の中で連携できるよう、お互いに勉強あっています。

それぞれの施設が、勝手に考えるのではなく、協力して、子どもひとりひとりを育てることを考えていこうということです。

これは、教育施設の間だけにとどまらず、学校や青少年教育団体はもちろん、地域の商店や、企業、自治体や、町内会など、色々な大人の方々と一緒に考えていきたいのです。

地域の大人がそれぞれ、「自分は子どもを育てるために、しつけの部分を担当」とか、「私たちは、子どもの冒険心を…」と、みんなで話し合い、みんなが何らかの役割分担していけるといいなと思います。

それはきっと、今の大人の経済中心の町から、子どもを育てることを中心に考えた町づくりと、なっていくのではないのでしょうか。そんな町が出現するといいなと思っています。



あかぎぐんぐん アドベンチャーキャンプ

たくさんの「はじめて」をあかぎで!! ～一歩踏み出す2日間～

昨年までは小学校3年生以上を対象としたキャンプでしたが、今年から小学校1～3年生を対象としたキャンプとして生まれ変わり、全6回、全て1泊2日の日程で行っています。

キャンプの大きな特徴の1つとして、「ゆったりとしたキャンプ」というのがあります。「はじめて」のキャンプとなる子どもが多いので、プログラムを難しくせず時間にもゆとりをもって、気軽に自然に親しんでもらい自然を好きになってほしいと思っています。



キャンプでは、はじめて親元を離れて過ごす子どもも多く、自分の知らない土地で知らない人たちに囲まれるので、最初はほとんどの子どもがよそよそしく口数も少ないです。

加えてキャンプの方針で、新しく出会った人と友だちになってほしいというねらいがあるので、友だち同士が別々の班になってしまい、泣き出してしまったりします。

それでも、森の中で遊んだり、一緒にご飯を作ったり、寝泊まりを共にすることで、キャンプが終わる頃には、班のメンバーみんな仲良くなって笑顔で帰っていきます。中には、班のリーダーや友だちとの別れが惜しくて、涙で帰るなんてことも…。



赤城の森の中の探検は、出会いと発見が盛りだくさんだよ!!



自分たちでたてたテントの前で記念写真。今日ここで寝ます!!

はじめて包丁で野菜を切る子。はじめて川で沢ガニを見つける子。はじめて自分で火を起こす子。はじめて大きな荷物を持って歩く子。はじめてテントを張った子。いろいろな子どもたちの「はじめて」を、後ろからポンッと背中を押してあげるようなキャンプです。これをきっかけに、たくさんのことを感じてもらえたら嬉しいです。(文：江原)

あかぎぐんぐんアドベンチャーキャンプ スケジュール

第1回	6月15日(土)～16日(日)	ハンモックでひとやすみ あそぼうバンづくり
第2回	7月20日(土)～21日(日)	森あそび キャンドルナイト
第3回	9月14日(土)～15日(日)	カレー作り ナイトウォーク
第4回	10月12日(土)～13日(日)	テントに泊まる 焼いもづくり
第5回	1月11日(土)～12日(日)	おもちゃを焼こう 凧揚げ
第6回	2月8日(土)～9日(日)	雪遊び お鍋料理づくり

これからの動き

下記の事業の詳細はこちらまでお問合せください⇒TEL027-289-7224(国立赤城青少年交流の家) ☎



【ふみだす探検隊 リフレッシュキャンプ】

※1泊2日
・2/8(土)～9(日)
福島県の子どもたち、80人が赤城に来て1泊2日、思いっきり外で遊ぶこと、群馬の郷土料理を楽しんでもらう。

【あかぎサンサンかが やきキャンプ】

※1泊2日
・2/8(土)～9(日)
障がいのある子どもない子どもと一緒に楽しく活動するキャンプです。メインプログラムは雪遊びと星空観察を実施します。



【あかぎカップ第3回 小学生ミニバスケット ボール交流大会】

・2/8(土)～9(日)
群馬県内外の小学生を対象にした、ミニバスケットボールの交流大会です。

【自然体験フォーラム】

※1泊2日
・2/15(土)～16(日)
「自然体験」に関わる人、これから関わりたいと思っている人が赤城に集まります。自分の地域で出来る自然体験とは何か?新しい自然体験について等、盛りだくさんのフォーラムです。



【大人の自然文化体験教室～ わくわくアウトドア入門～】

※1泊2日
・3/1(土)～2(日)
いつか子どもと一緒にキャンプへ行きたい!でも道具も知識もないから何から始めたらいいかわからないというお父さん・お母さん、まずは体験することから始めましょう。

お知らせ

食事料金等の改定について(ご案内)

平成26年4月1日から消費税率が5%から8%に引き上げられることから、下記のとおり食事の価格を改定することとなりましたので、お知らせいたします。

平成26年4月1日より

	朝食	昼食	夕食	合計
中学生以上	420円→440円	530円→540円	650円→660円	1600円→1640円
小学生	410円→430円	520円→530円	630円→640円	1560円→1600円
幼児	340円→350円	420円→430円	540円→550円	1300円→1330円

※お弁当 530円→540円

※シーツ代と施設使用料は据えおきとなります。

その他、教材費や野外炊事の活動備品の価格も改定しますので、料金につきましては、新たにお送りする平成26年度の利用ガイドでご確認ください。



国立赤城青少年交流の家で活躍する講師やボランティアの方をご紹介します

この人に会いたい

●国立赤城青少年交流の家 ボランティア

小林 秀平さん (ボランティアネーム: ちゃら)



彼は、赤城法人ボランティアとして当所の主催事業の企画・運営をしているだけでなく、講師として、レクリエーション・あかぎアドベンチャープログラム・キャンプファイヤー等の指導で活躍しています。

普段は「ちゃら」と呼ばれて親しまれています。

ちゃらのキャンプファイヤーは楽しいと子どもたちに人気です♪

まず、赤城との出会いについて聞いてみました。大学1年生の時に学内の野外活動研究会に加入して先輩に連れられて赤城に来たそうです。そして、キャンプをしていくうちに魅力に引き込まれてしまったとのことでした。

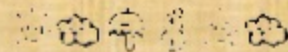
次にキャンプなどの自然体験の魅力について聞くと「自然の中で遊ぶ楽しさ、決して便利ではない環境でみんなが協力しているいろいろな事に取り組む難しさやおもしろさ、日常では経験することのないワクワク感。すべて最高ですよ」とアツク語ってくれました。

最後にひとこと…「キャンプはステキですよ。ぼくと一緒にしてみませんか。そして、最近やり始めたギターで歌いましょう。」

NICE GAYちゃらに会いに、赤城に来てください。そして彼のステキさを感じてください。(文: 廣澤)

あかぎをつかう!

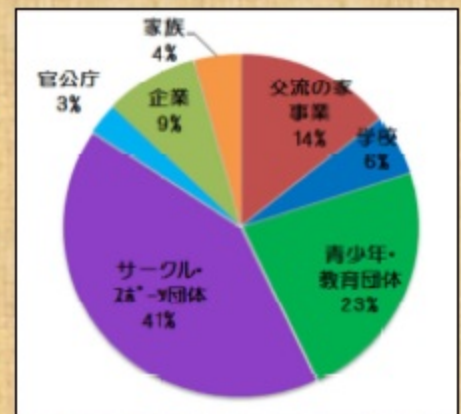
利用のようす(12~1月)



■12月の利用者数
…5,041人 42団体

■1月の利用者数
…2,599人 22団体

★利用団体
種類別の割合⇒



11月~2月の平日は、自由に使える研修施設が多くおすすめです。

施設周辺の植物

すっかり寒くなり木々についた葉っぱもほとんど落ちてしまいました。赤城の木々も、次の春に向けて支度をしています。

今回は赤城で見つかる木の実を紹介します。ちょうどリンゴの種が果実に包まれているように、赤城の樹木にも果物があり、それぞれ種がつきます。施設内を歩いているとたくさんの木の実があることに気づきます。

- ①カラマツ
- ②ヒノキ
- ③ナツツバキ
- ④ヒマラヤスギ



どんな種が入っているかは、来て、見て、触ってのお楽しみです。山といえば夏のイメージですが、冬も大変魅力的な場所です。『ネイチャークラフト』や『森のこびん』といったプログラムの材料を探すのにはもってこいの時期。冬の赤城にもぜひ足をお運びください。

野外活動における・リスクマネジメント

入門編

第2回

多くの団体にご利用いただくなかで、今年実際にあった出来事を紹介しましょう。

ある小学校がナイトハイクとして、夜の森を歩く活動を行いました。おそらく「きもだめし」的な内容だったのかもしれませんが。先生たちはポイントに立ち、道を迷わないようにする対策は取っていました。しかし脅かされた子どもがひとり、あまりにもびっくりして過呼吸をおこしてしまいました。

この事例での問題点は、「今の子どもは暗闇を歩くだけでもかなりの恐怖感を持っている」という想定がなされていないことです。夜の赤城は、自然そのままの姿なので、最低限の明かりしか残していません。ふだん暗闇で過ごすことがない子どもたちにとっては、ふつうに歩くだけでもかなりの挑戦です。学校生活では考えられないことも、野外ではたくさん起こるのです。

(文: 高瀬)

【テーマ:冬の赤城山の魅力】

【前橋市児童文化センター】 <http://www.jbc.menet.ed.jp/>

児童文化センターは子どもたちが楽しく遊びながら学べる施設です。館内には最新のプラネタリウム、県内各地の野メダカなどを展示したわくわくアクア、丸い大型水槽でザリガニやメダカの観察ができるスペースECO、ゆっくり本に親しめる図書室などがあります。

また、水力発電、太陽光発電、風力発電など、環境に優しいエネルギー施設があるのもこのセンターの特色です。交通学習ゾーンでは、遊びながら楽しく交通ルールを学んだり、足踏みカートやゴーカートに乗ったりすることもできます。風力発電を利用したEVゴーカートが一番人気です。

当所への入所前や、退所後に立ち寄ることも可能です。リニューアルオープンし、綺麗に生まれ変わった児童文化センターへ、ぜひ足を運んでみてください。

(文:根岸)



児童文化センターの外観です。

- 所要時間: 交流の家から車で30分
- 住所: 〒371-0013 群馬県前橋市西片貝町5丁目8
- TEL: 027-224-2548
- 営業時間: 9:00~16:30
- 定休日: 月曜日(休日の場合は翌日)・第2木曜日

リレーcolumn すたっぷの目

『Boy and Girl scouting』と『ジジ・ババ』と自然

文: 小野里清治(おのざと せいじ)、神山道代(かみやま みちよ)

朝、出勤してつどいの広場にたなびく日の丸を見ると、頭の中に「光の道」のメロディーが流れて涙がキラリ。

昼、昼食を食べて日の丸を見ると、「ジャンボリー」のメロディーが流れて元気がグン。

夕、帰り支度で日の丸を見ると、「我はフクロウ」のメロディーが流れ心がシュン。

我ら二人、「ちかいとおきて」に、身も心も清め歩んできた「ジジ・ババ」スカウト。

スカウティングが、スカウト天狗になり、今は体に染みこんだスカウト技術で、よたッティングで歩いている。

三指の敬礼の三本指は、神経痛で曲がりそう。

当時は何が楽しくて、歌いながら、ロープを結んで、手旗を振って、水くみして、テントを張って、調理をし、山の中を半ズボンとスカートで走り回ってたのだろう。

でもそんな自然体験が、こんな素敵な「ジジ・ババ」を創ってくれた。

1+1=2の答えは学校で学び、心に役立つ「???力」は、ここ赤城で学んだら如何でしょう。いつの日か効果が出てくる、自然の力。赤城に沢山溢れてますよ〜〜。



キャンプ場の管理をしてくれている小野里さん。講師室を綺麗にベトナムメイクしてくれる神山さん。お二人は赤城の宝です。

- 冬は空気が澄んで遠くの家や夜景、星空が凄く綺麗に見えます。寒いですが、これは一見の価値あります。(原田)
- 冬の赤城は、研修施設が比較的空いていて、ご希望の施設を提供しやすいと思います。寒さなんて尻の河童の方、ぜひ赤城をご利用ください。(中屋)
- 赤城おろし、赤城山から下りてくる乾いた冷たい風に身をさらすと、気持ちがキリッと引き締まります。(新井伸)
- 赤城第1スキー場がオススメ☆日本一小さなスキー場で、ソリ遊びには最高です。(江原)
- 凍った空気が気持ちを引き締めてくれます。百万ドルの夜景も、瞬く星も実は冬がオススメです。(高瀬)
- なんといっても 絶品の景色。特にお気に入りは宿直明け、早朝の鍋割山と帰りがけ、前橋の夜景が最高!(木暮)
- 本当に綺麗だよ! 日の出に照らされた”あか〜い赤城山”(井上)
- 先日広瀬川沿いで黄昏れてたら『方丈記』の一節が頭に。「行く川の流れるは」迄はすんなりと。その後が美空ひばりの川の流れになってしまった。なんてヤツ。(小野里)
- 冬の森は美しさがありますね。冷たく澄んだ空気と、衣を脱いだ木々のおかげで、どこまでも見通せる気がします。(根岸)
- バードウォッチングとアニマルトラック。そして冷えた体に秘湯めぐりでしょうか…やったことないけど。(小川)
- 澄んだ空気、カラマツ、霜柱、かざはな、ヒマラヤスギ、事務所のあたたかい食べ物(山田)
- 旗が吹き飛ばされそう な強風「空っ風」風を揚げてみたら…すごかった「みなさまもぜひ!!」(鈴木)
- 赤城おろしが肌にささるからこそ、コンビニの「あんまん」や「おでん」が最高においしくなる季節です。(笑)(廣澤)
- 冬の赤城といえば、やはりからっ風です。群馬の冬を実感できます。(織間)
- この時季の赤城大滝は、全面凍結でとても綺麗です。冬ならではの景色をお楽しみください。(神山)
- やはり星空☆山頂近くでは、手が届きそう ところでキラキラ…暖かいココアがあれば最高です。(阿佐美)
- 夕暮れ時、遠くに見える榛名山、妙義山のシルエット、そして前橋市街地の夜景は絶景、群馬県庁が特に象徴的です。(松崎)
- 空気が清んで各方面の山並みが見渡せること。(森田)
- 赤城山からの吹きおろし風が冷たさを増し、一段と寒さを感じる時期ですが、春の到来を待ち望む心に微妙な揺れがあるのは自分だけかな (佐藤)
- 冬の強い風の中、少し背中を丸めながら、飛び込むラーメン屋さん…幸せ。うまいラーメン屋さん、多いです。(桜井)
- からっ風街道を吹き抜ける北風。上州名物空っ風またの名を「赤城おろし」これぞ赤城の冬の代名詞。寒〜い!(新井義)
- 冬はやはり雪! 遠くに白い山が見えると胸がキュンキュンします。頭の中にロマンスの神様が流れる。(川崎)
- さむ〜い時期の交流の家から見える夕焼けは、赤というよりピンク色をしていて、グラデーションが凄くキレイなので、ぜひ赤城にお越しの際は見てみてください♪(藤)

次号は、
4月1日発行予定!

「スタッフブログ」
「Facebook」で
当所の情報を更新中

国立赤城青少年交流の家 <http://akagi.niye.go.jp>

TEL:027-289-7224 (9:00~18:00)

FAX:027-289-7226

〒371-0101 群馬県前橋市富士見町赤城山27

E-mail: akagi@niye.go.jp

あかぎ カラゴロリ

検索